東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 3 月 30 日

預言者の聖誕

ムスリムの皆様。預言者ムハンマドがこの世に遣わされる以前、人々は大切な基準を失い、道を見失っていました。教えへの憎悪や多神教への崇拝が人々の心を闇に染めていました。不正があらゆる場面で行なわれ、社会の均衡は崩れ、道徳は失われていました。親戚との結びつきは絶たれ、隣人の権利は忘れ去られていました。女性や女児は人間として扱われず、圧政者が人々を抑圧し、労働の対価が与えられることもありませんでした。つまりこの世において人が必要としているやすらぎ、生命、財産、誇り、そして次世代といったものの保証が失われていたのです。

預言者ムハンマドは、抑圧と闇に覆われたこのような時代に、ラビーウ＝ル＝アウワル月の１２番目の日、月曜日の夜に誕生され、この世に栄誉を与えられたのです。この日の朝は輝きに満ちたものでした。人類の為にまったく新しい日が生まれ、輝かしい一つの時代が始まったのです。美徳の太陽、ヒダーヤの灯火であられる預言者ムハンマドが遣わされることによって、アッラーの全人類への最大の恵みがさらに一つ、そこに顕れたのです。アッラーはクルアーンで次のように仰せられています。「本当にアッラーは、信者たちに対して豊かに恵みを授けられ、かれらの中から、一人の使徒をあげて、啓示をかれらに読誦させ、かれらを清め、また啓典と英知を教えられた。これまでかれらは明らかに迷い誤の中にいたのである。」（イムラーン家章第１６４節）

すなわち、人間界すべてに、ヒダーヤの歴史の始まりをもたらされたアッラーの使徒は、人々にアッラーからの啓示と被造物を通して示されている意味を説き、人々の視野をただしました。彼らを神への知識、存在の神秘へと導き、人々を良い行いへと方向転換させ、彼らの徳を完成されたものでしたと明言しているのです。そして闇に染められた心をクルアーンの光で照らし、人々をアッラーのしもべであることへと導きました。この呼びかけに耳を貸す者には、正しいことを語り、親戚との結びつきを維持し、正当な理由もなく人の血を流さないことを教えられました。そのようにして２３年間の預言者としての生をとおして、多神への崇拝ではなくタウヒードを、暴虐ではなく公正さを、敵意や分断ではなく兄弟愛、相互扶助をもたらされ、社会に安定を与えられたのです。正しさ、信頼、公正、寛容、礼儀、寛容といった優れた振る舞いにおいても、まずご自身が人々への模範となられたのでした。

親愛なるムスリムの皆様。現代の人々は、預言者ムハンマドが示される模範、愛情と慈悲に満ちた息遣い、精神的リーダーシップ、このお方を知り、このお方を愛することによってもたらされる安定した環境を、どの時代の人々よりもなお、必要としているのです。預言者ムハンマドは、人を人たらしめる価値ある基準を、自らが実践されることによって私たちに示されました。人が直面するあらゆる災難の背景には、このお方の慈悲から遠ざかり、その愛情と慈しみのそよぎを心に取り入れることができていない、という事実があるのです。人は預言者ムハンマドを知るほどに、それに応じた形で愛情や結びつきを感じるのです。第２代カリフであるウマルさまは、預言者ムハンマドを殺すために家を出て、しかしその道の途中でこのお方のもたらされたメッセージとこのお方の真実を理解し、生涯をとおして預言者ムハンマドのおそばから決して離れることのない最も近しい友の一人となられた、ということは皆が知っているでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。私たちムスリムには、愛情の中心である預言者、というイメージがあります。このイメージを思考や意識の段階に反映させるためには、私たちはこういった形容を多く必要としているのです。ユヌス・エムレの言葉では愛の預言者、メヴラーナの言葉では慈悲の預言者、アフマド・ヤサーウィーの言葉では英知の預言者、ハジュ・ベクタシュ・ヴェリの言葉では無比の父。これらをとおし人は預言者ムハンマドを新たに見出し、それを社会のあらゆる層に広めていく必要があるのです。

今日、私たちはこのお方への愛情、熱意を必要とし、このお方について詠み、理解し、実践する必要性を持ちます。私たちの心はこのお方の案内を必要としているのです。現代人の最大の問題は愛情の欠損です。このお方を愛し、このお方をとおして人々や世界をあいすることを、私たちはいつの時代の人よりもなお、必要としているのです。

預言者の聖誕をとおし、アッラーが預言者ムハンマドの愛情を私たちの心に感じさせてくださることを、そしてこのお方のウンマとしてあの世で復活することをアッラーに乞い、願っております。